

2026年度

シラバス

第3学年（第8回生）

学校法人 医療創生大学
葵会仙台看護専門学校

領 域	基礎分野		科目	情報リテラシーⅡ		担当	杉本 くみ子(5) 桐田 三世(3)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
3年次	後期	1 単位	15時間	8回	講義・演習	課題		100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
杉本 くみ子		大学・短大・専門学校・社会人向講習会等での情報関連・P C 講義担当 主にVBAによるミニマムアプリ開発						
桐田 三世		臨床看護実践、臨床研究の発表、指導経験あり。						
到達目標		情報リテラシーⅠで学んだ基礎知識を元に、文献検索やExcelを利用したデータ集計・グラフ作成などを使って効果的で説得力のあるプレゼンテーションを実施できる基礎能力を身につける。						
授業概要		情報の特徴を理解し、その収集や分析、伝達に関する基本的な性質や特徴を理解する。その上で、医療における情報の管理や扱いに対する知識を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)		コンピュータの利用に関する解説も行うので、事前にコンピュータに関する知識を自己学習してください。						
回数	授業内容						授業方法	
1	パワーポイントの基本操作①						講義・演習(杉本)	
2	パワーポイントの作成①						講義・演習(杉本)	
3	パワーポイントの作成②						講義・演習(杉本)	
4	伝えるプレゼンテーションテクニック①						講義・演習(杉本)	
5	伝えるプレゼンテーションテクニック②						講義・演習(杉本)	
6	テーマにそったプレゼンテーションの実際①						演習(桐田)	
7	テーマにそったプレゼンテーションの実際②						演習(桐田)	
8	テーマにそったプレゼンテーションの実際③						演習(桐田)	
教科書		参考プリント						
参考文献								
備考		本科目は看護研究の基礎と連動している						

領 域		専門基礎分野		科 目	統合臨床判断		担 当	鈴木 美佐子	
開講年次		開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
3 年次		前期	1 単位	15時間	15回	講義 演習	個人課題	50%	GW課題 50%
担当者名			担当講義に関する経歴及び実務経験						
鈴木 美佐子			成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
到達目標			病態治療学の知識を統合し、臨床に必要な推論を実践し、科学的に患者の症状・状態を考 えることができる。						
授業概要			症状から考えられる病態をあげ、必要な検査や治療、重症度・緊急度を考える。						
学習者への期待 (準備学習含む)			今までの学習から得た知識を統合し、沢山の可能性について考えてほしい。グループワー ク課題の演習が中心となるため、課題への取り組み姿勢や演習態度も評価対象となる。そ のため、主体性を持って取り組んでもらいたい。						
回数				授業内容				授業方法・担当	
1	臨床推論の思考過程			・臨床推論の進め方 ・推論から考える重症度・緊急度判定について				講義・演習	
2	胸痛・腹痛から考える 疾患の検討			・推論を進めるための疾患の検討 ・疾患理解を進めるための個人学習				演習	
3	胸痛・腹痛から考える 臨床推論①			・胸痛・腹痛に関するグループワーク				演習	
4									
5	胸痛・腹痛から考える 臨床推論②			・胸痛・腹痛に関するグループワーク				演習	
6									
7	発表・まとめ			グループワークの発表・まとめ				演習	
8									
教科書			系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院 他						
参考文献			フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる 第2版 山内豊 明 医学書院 患者さんのサインを読み取る！ 山内先生のフィジカルアセスメントフィジカルアセス メント 症状編 山内豊明 ナース専科books						
備考									

領 域		専門基礎分野		科目	看護関係法令		担当	木島 上	
2022年度		開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
3 年次		後期	1 単位	15時間	8 回	講義	単位認定試験		100%
担当者名			担当講義に関する経歴及び実務経験						
木島 上			法学部法律学科卒業。YMCAで教育にも携わる。						
到達目標			看護師に必要な保健・医療・福祉に関する諸制度とその関係法規について学び、看護の役割及び与えられた責務を正しく遂行するために、看護業務に関連する法律を理解できる。						
授業概要			保健師助産師看護師法の理解にとどまらず、わが国の保健医療福祉に関する諸制度の概要とそれを規定する諸法令についての理解を深め、生活や健康に関わる幅広い知識を学ぶ。						
学習者への期待 (含む準備学習)			看護は人間の生命に直接関わる職業であることを認識し、与えられた職責を正しく遂行するために関連する法令をしっかりと学んで欲しい。						
回数	単元			授業内容				授業方法	
1	法の概念 医事法			(1) 法の概念 (2) 医事法（看護法・医師法医療関係資格法）				講義	
2	保健衛生法			(1) 保健衛生法 a 共通保健法 b 分野別保健法 c 感染症に関する法				講義	
3	薬務法 環境衛生法			(1) 薬務法 a 医薬品 b 毒物等 (2) 環境衛生法 a 営業 b 環境整備				講義	
4	社会保険法			社会保険法 (1) 雇用保障 (2) 年金手当				講義	
5	福祉法			福祉法 (1) 共通的福祉 (2) 分野別福祉				講義	
6	労働法と社会基盤整備			労働法と社会基盤整備 (1) 労働法 (2) 社会基盤整備等				講義	
7	環境法			環境法 (1) 環境保全の基本法 (2) 公害の防止法 (3) 自然保護法				講義	
8	単位認定試験							試験	
教科書			系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 4 看護関係法令 医学書院						
参考文献									
備考									

領 域	専門基礎分野		科目	経済と看護		担当	桐田 三世	
2022年度	開校時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法		
3 年次	前期	1 単位	15時間	8 回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
桐田 三世		急性期病院での看護管理者の経験あり。						
到達目標		1 看護・医療を経済的側面から考察することができる。 2 社会における医療費、社会保障費の動向と課題について理解できる。 3 診療報酬制度と看護業務の関連性が理解できる。						
授業概要		今日の高齢社会の進展に伴い、国民医療費の高騰、看護師不足、病院の経営危機等の諸問題が生じており、単に財政的問題にとどまらず、看護・医療の質に関わる問題につながっている。これからの看護職を目指す者として、看護師の雇用環境や働き方、看護実践においても経済的発想を持つことが求められる。看護・医療を経済的視点から捉えて有用性を知る。						
学習者への期待 (含む準備学習)		医療従事者になる者として、また看護学生最高学年として、社会における医療費問題に関する関心と看護業務における経済的観念を自分の将来の働き方に反映できるよう主体的に学習してほしい。						
回数	単元		授業内容				授業方法	
1	看護と経済		・看護職に経済学を学ぶ意義 ・医療サービスの特性 ・公的医療保険はなぜ必要か ・社会保障費の増大				講義	
2	医療費支払いシステム		・医療の質評価 ・医療サービスの規制 ・医療費支払いのシステム ・診療報酬 ・出来高払いと包括払い(D P C)				講義	
3	社会と医療費		・公的医療保険と民間医療保険 ・高額医療費を負担する患者の声 ・日本人口と課題				講義	
4	医療の無駄		・医療の無駄 ・急性期医療の集約化 ・医療サービスの費用効果分析 ・保健医療機関指定の取り消し				講義	
5	場面ごとの診療報酬①		・場面ごとの診療報酬 (臨床検査・手術・医学管理料等)				講義	
6	場面ごとの診療報酬②		・看護業務と診療報酬 ・看護における処遇改善 ・持続可能な目標(S D G s)				講義	
7	場面ごとの診療報酬③		・在宅の場面				講義	
8	単位認定試験						試験	
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 1 看護管理 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度① 医療概論 医学書院						
参考文献		ナーシング看護学テキスト 看護管理学 南江堂 診療報酬のしくみと基本 メディカ出版 イラスト図解 医療費のしくみ 日本実業出版社 中堅どころが知っておきたい医療現場のお金の話 メディカ出版 診療報酬点数早見表 医学通信社						
備考								

領 域		専門分野		科 目	臨床看護学援助論		担 当	鈴木 美佐子
開講年次	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
3 年次	前期	1 単位	15時間	8回	講義 演習	単位認定試験		50%
						演習態度・出席状況		20%
						レポート課題		30%
担当者名			担当講義に関する経歴及び実務経験					
鈴木 美佐子			成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。					
到達目標			場面を通して、対象に生じた症状・状態をアセスメントし、医師への報告及び必要な看護を実践できる。					
授業概要			これまで学んだ病態治療学、看護の知識を統合し、場面における対象のフィジカルアセスメント、対象に必要な看護援助をグループワークで主体的に学ぶ。場面からさらに必要な検査項目を考え、医師への報告内容について考える。					
学習者への期待 (準備学習含む)			授業を理解するために、既習科目を復習しながら事前・事後課題に取り組むこと。 演習では、手順や留意点、イメージトレーニングを行い、主体的に演習に臨むこと。 既習の看護技術の講義内容をよく復習し、演習での気づきを課題にまとめ、学びを整理しながら学習をすすめてほしい。					
回数	単元		授業内容					授業方法 担当
1	より良い看護実践について 「胸痛のある患者」演習		学習の進め方、学習内容、事例の提示 「胸痛のある患者」の場面をもとに、個人ワーク					講義・演習
2	「胸痛のある患者」演習		「腹痛のある患者」の場面をもとに、グループワーク					演習
3								演習
4	「胸痛・腹痛のある患者」演習		「胸痛・腹痛のある患者」の場面をもとに、個人ワークののち、グループワーク					演習
5								演習
6								演習
7	発表 まとめ		状態に応じた看護援助の実施、発表、振り返り					講義・演習
8								
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 (基礎看護学④) 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ (基礎看護学③) 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ (基礎看護学③) 医学書院 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 医学書院						
参考文献		1 アセスメントに自信がつく 臨床推論入門 2 山内先生のフィジカルアセスメント 患者さんのサインを読み取る！症状編						

領域		専門分野		科目	看護研究の基礎		担当	桐田 三世(8)	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	授業回数	授業形態	評価方法			
3年次	後期	1単位	15時間	8回	講義 演習	ケース スタディレポート		100%	
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験							
桐田 三世		臨床看護実践、臨床研究発表・指導の経験を有する。							
到達目標		1 看護研究に取り組む上での基本的な考えを理解できる。 2 看護研究の目的、種類について理解できる。 3 看護研究の過程について理解できる。 4 事例研究に関する基礎的な知識と方法について理解できる。 5 看護研究を実際に行い、研究成果を発表することができる。 6 研究成果を論文にまとめる事ができる。							
授業概要		看護研究及びケーススタディに関する一般的知識を学び、臨地実習で受け持ったケースの看護過程について振り返り、文献を活用しながら看護についての考えを深めるとともに、看護実践を研究的な態度で行うための基礎的な能力を養う。							
学習者への期待 (含む準備学習)		看護援助の内容を振り返り検討するという手法は、日常の看護内容を振り返り、具体的な看護の方向を見出すための必須の学習内容である。看護のプロセスの中で生じた疑問や問題を受け止め、自分の頭で考える行動が、自分の看護者としての力になることを演習を通して理解してほしい。							
回数	項目		授業内容				授業方法		
1	看護研究の理解		・看護研究の意義と必要性 ・倫理的配慮 ・研究方法の特徴と研究プロセス ・研究における文献検索の意義と検索方法 ・ケーススタディの特徴と展開 ・クリティーク				講義		
2									
3									
4	ケーススタディの展開		ケーススタディ演習				演習		
5									
6									
7									
8									
教科書		系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院							
参考文献		高橋百合子監修 看護学生のケーススタディ メジカルフレンド社 松本孚・森田夏実編集 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 照林社							
備考		未修得科目がある場合は、受講できない。(母性、地域在宅の科目は除く) 本科目は情報リテラシーⅡと連動している。							

領 域	専門分野		科 目	看護管理		担 当	桐田 三世	
2022年度	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
3 年次	前期	1 単位	15時間	8 回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
桐田 三世		急性期病院での看護管理者の経験あり。						
到達目標		保健医療施設などにおける組織的看護サービス・管理の本質を学び、管理的思考や医療を取り巻く環境の変化について理解する。						
授業概要		看護のマネジメントは人・物・金・情報などの資源を効果的・効率的・安全に活用して理想とする看護を提供するプロセスである。						
学習者への期待 (準備学習含む)		2 年次までの各領域の知識を復習し、看護師として組織の中で働くための必要な知識であることを踏まえ、主体的に学習に臨んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	看護とマネジメント		・看護におけるマネジメント				講 義	
2	看護管理の実際		看護管理の実際				講 義	
3	看護職の キャリアマネジメント		・看護職のキャリア形成 ・タイムマネジメント・ストレスマネジメント				講 義	
4	看護サービスの マネジメント		・組織目的達成のマネジメント ・看護サービス提供の仕組みづくり ・人事・施設・物品・情報・リスクのマネジメント ・サービスの評価				講 義	
5								
6	マネジメントに 必要な知識と技術		・リーダーシップとマネジメント ・組織の調整				講 義	
7	看護を取り巻く諸制度		・看護職 ・医療制度 ・看護政策と制度				講 義	
8	単位認定試験						試 験	
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 1 看護管理 医学書院						
参考文献								
備考								

領 域	専門分野		科 目	医療安全論		担 当	桐田 三世	
2022年度	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
3 年次	前期	1 単位	15時間	8 回	講義	単位認定試験		100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
桐田 三世		臨床での医療安全管理者の実務経験を有する。						
到達目標		人は間違いをおかす存在であることを自覚したうえでエラーを防止するために、看護業務や行為の視点からしてはならないこと」「すべきこと」を明確にし、患者の安全を守るために必要不可欠な知識・技術を習得する。						
授業概要		医療現場で起こりうるさまざまな看護事故の種類について実際の例を基に学び、その防止についても理解を深める。						
学習者への期待 (準備学習含む)		看護師は最終的な医療行為者や観察者となることを認識しつつ、観察の不足が重大事故に繋がる日常に身を置くことを考えながら真剣に取り組んでほしい。						
回数	項目		授業内容				授業方法・担当	
1	医療安全を学ぶことの大切さ		・人はなぜ間違いを犯すのか ・医療事故とは ・医療安全に関わるキーワード				講義	
2			・看護事故の構造 ・看護事故防止の考え方 ・注射業務と事故防止					
3	診療の補助の事故防止		・注射業務に用いる機器での事故防止 ・輸血業務と事故防止 ・内服与薬業務と事故防止					
4			・経管栄養業務と事故防止 ・チューブ管理と事故防止					
5	療養上の世話の事故防止		・転倒・転落・窒息・誤嚥・異食 ・入浴中の事故防止					
6	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 医療安全とコミュニケーション 看護師の労働安全衛生上の事故防止		・業務領域をこえて共通する間違い患者間違い ・間違いを誘発する多重課題・新人特有な思い込み ・事故防止のための医療職間のコミュニケーション ・事故防止のための患者とのコミュニケーション ・職業感染・抗がん剤の暴露・放射線暴露 ・ラテックスアレルギー・院内暴力					
7	組織的な安全管理体制への取り組み 医療安全対策の国内外の潮流		・組織としての医療安全対策 ・システムとしての事故防止の具体例 ・我が国の医療安全対策の潮流 ・国外の医療安全対策の潮流と国際的連携					
8	単位認定試験(看護管理と医療安全)						試験	
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院						
参考文献		医療におけるヒューマンエラーなぜ間違えるどう防ぐ(第2版) 河野龍太郎 医学書院 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 川島みどり 医学書院 ヒヤリ・ハット1 1,000事例によるエラーマップ完全本 川村治子 医学書院 医療事故 看護の法と倫理の視点から(第2版) 石井トク 医学書院						
備考								

領 域		専門分野		科 目	災害・国際看護学		担 当	外部講師 遠藤 真起子(6)	
2022年度		開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法		
3 年次		前期	1 単位	30時間	15回	講義	単位認定試験		100%
担当者名			担当講義に関する経歴及び実務経験						
外部講師									
外部講師									
遠藤 真紀子			看護教員の経験、国際看護活動(青年海外協力隊)の実務経験を有する。						
到達目標			(1)災害医療・看護の概念と災害各期の看護を学び、災害時における看護の役割について理解できる。 (2)世界の保健・医療の現状を知り、国際救援活動と国際看護活動における看護の必要性和役割について理解できる。						
授業概要			(1)災害における健康問題と医療・看護の基礎知識を災害サイクルに沿って学ぶ。 (2)医療・看護の国際協力とそのしくみ、活動の実際などを学ぶ。						
学習者への期待 (準備学習含む)			災害は、地域の人々の暮らしと密接に関連しながら健康や生活に影響を及ぼすことを理解し、災害サイクルにおける被災者の健康ニーズに応じた看護の必要性和役割を認識してほしい。また、国際化、グローバル化されている現代社会における看護の役割や身近な外国人への医療支援の必要性和を理解してほしい。						
回数	項目			授業内容			授業方法・担当		
1	災害看護	災害看護学の基礎知識		・災害看護学と国際看護学を学ぶ意義 ・災害看護・国際看護の原則 ・災害看護の歩み			講義：		
2									
3		災害医療の基礎知識		・災害の定義 ・災害の種類と健康被害 ・災害医療の特徴 ・マスギャザリングとNBC災害への対応 ・災害と情報			講義：		
4									
5		災害看護の基礎知識 災害サイクルに応じた災害看護		・災害対応に関わる職種間・組織間連携 ・災害看護と法律 ・災害看護の定義と役割・対象 ・災害看護の特徴と災害看護活動 ・災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護(急性期・亜急性期・慢性期・復興期・静穏期)			講義：		
6									
7		被災者特性に応じた災害看護の展開		・子供・妊産婦・高齢者・障害者・精神障害者 ・慢性疾患患者・原子力災害・在留外国人			講義：		
8									
9		災害とこころのケア		・災害がもたらす精神的影響 ・被災者・遺族のこころのケア ・救援者のストレスとこころのケア			講義：		
10									
11		災害看護の実際		・災害医療実施のための体系的アプローチ(CSCATTT) ・トリアージ ・DMAT(P50)・DPAT(P51)・DHEAT(P51)			講義：		
12	国際看護	国際看護への理解		・国際看護とは何か ・異文化理解と異文化看護 ・海外と国内における国際看護の対象と役割 ・国際協力活動における看護活動の実際			講義：遠藤真		
13							講義：遠藤真		
14							講義：遠藤真		
15	単位認定試験・まとめ						試験		
教科書			系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践3 災害看護学・国際看護学 医学書院						
参考文献									
備考									

領 域		専 門 分 野		科 目	臨床実践の統合		担 当	桐 田 三 世	
2022年度	開講時期	単位数	時間	授業回数	授業形態	評価方法			
3 年次	前期 後期	1 単位	30時間	15回	講義 演習	レポート	60%	演習評価	40%
第3学年（第4回生）		担当講義に関する経歴及び実務経験							
桐 田 三 世		臨床での看護実践、管理業務の実務経験を有する。							
到達目標		1 統合実習を効果的に学ぶために、学生個々に十分な準備ができる。 2 看護実践能力を評価し、専門職としての自己の課題を明確にする。							
授業概要		統合演習では、本学での3年間で履修した学びの総まとめとなる統合実習がスムーズに実習できるように、その準備を行う。 実習後の演習では、統合実習での学びを通して自己の看護の実践能力（知・技・心）を評価し、発表の場を設け専門職としての自己の課題を明確にする内容とする。							
学習者への期待 （準備学習含む）		今までの臨地実習を振り返り、自己の課題や技術経験の不足などを踏まえ統合実習の準備ができる。また、複数受け持ちの場合の優先すべき根拠を明確にし、考えられるようになってほしい。							
回数	項目			授業内容				授業方法	
1	統合演習について事例展開			実習前演習 ・統合演習オリエンテーション ・統合実習のキーワードに関する講義 ・看護記録の記載 ・報告要領				講義 演習	
2									
3									
4									
5	多重課題対応			・入院時病歴聴取 ・複数患者受け持ちを想定した1日の業務計画立案 ・多重課題対応について（講義・演習・振り返り）				講義 演習	
6									
7									
8	実習のまとめ			実習後演習 ・統合実習のまとめ （KJ法にて、グループワーク）				演習	
9									
10									
11									
12				発表				演習	
13									
14									
15	看護観			自己の看護観の整理（論文作成）				演習	
教科書		系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院							
参考文献									
備考		未修得科目がある場合は、受講できない。							

領域	専門分野		科目	地域・在宅看護論実習Ⅱ		担当	佐々木みゆき 片岡佳子 他
2022年度	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法	
3 年次	前期	2 単位	90時間	2週間	実習	実習評価法	100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験					
佐々木みゆき		臨床での看護実践、看護教員の経験を有する（実習調整者）。					
片岡 佳子		臨床と訪問看護ステーションでの訪問看護実務経験あり。大学で教育及び、ケアマネジャーの経験を有する。					
授業内容		訪問看護ステーション、通所リハビリテーション、居宅事業所の実習を通し、在宅療養者とその家族の生活を理解し、在宅看護を実践するために必要な基礎的能力を習得する。また、病院・地域社会の看護の継続性とそのために必要な社会資源の活用や多職種との連携・協働について理解する。					
学習者への期待 (含準備学習)		実習は臨地の現場でしか学べない多くの知識・技術・態度を身につける機会である実習をより実りあるものにするために学内での授業・演習をしっかり受講し事前準備を万全にして臨んでほしい。					
実習内容							
1 実習期間		3 年次 5 月～10月					
2 実習目的		地域で療養しているあらゆるライフステージにある対象者とその家族を理解し、健康レベルに応じた援助を実践できる基礎的能力を養う。					
3 実習目標		(1) 地域で療養する対象者と、その家族の生活状況を知り、疾病や障害が生活に及ぼす影響を理解することができる。 (2) 在宅療養生活が継続するための個別の看護を理解できる。 (3) 社会資源の活用及び関係職種との連携・協働の必要性が理解でき、看護職の果たす役割が考えられる。 (4) 在宅看護を学ぶ学生として望ましい態度を身につけることができる。					
3 実習計画		(1) 訪問看護ステーション：同行訪問4日間、振り返り、事例検討会2日間（学内） ・訪問看護師とともに在宅療養者宅を同行訪問をし、訪問看護の援助の実際を学び、訪問看護の役割や生活環境の場に応じた看護援助を体験する。 (2) 通所リハビリテーション、居宅支援事業所：実習2日間、振り返り1日（学内） ・通所リハビリテーション施設でスタッフとともに利用者のケアに参加し、利用者との関わりを通して、在宅生活の理解を深め、利用者・家族を支援する社会資源の意味を考える。 ・介護支援専門員から利用者宅の訪問や関係機関との連絡調整などケアマネジメントの実際について説明を受け、ケアマネジメントの展開、ケアマネジャーの役割や連携の必要性を学ぶ。					
教科書		ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域を支えるケア メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 在宅療養を支える技術 メディカ出版					
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。					
備考		詳細は実習要項を参照					

領域	専門分野		科目	成人・老年看護学実習Ⅰ (急性期)		担当	佐々木 みゆき 内田 祝子 他	
開講年次	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法		
3年次 前・後期		3単位	135時間	3週間	実習	実習評価表		100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
佐々木 みゆき		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
授業内容		周手術期の患者、慢性疾患の急性増悪患者など侵襲的な治療検査を受ける成人患者・家族を多面的に理解し、看護過程を通して侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように看護を学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)		基礎看護学・成人看護学概論・成人看護学援助論で学んだ知識・技術をもって、実習の目的を意識しながら臨地実習に臨んでほしい。また、急性期・周手術期、特に手術直後の患者は容態や治療経過の変化が早いので、主体的・積極的に看護展開ができるようにして欲しい。						
実習内容								
【実習時期】 3年次5月～10月 【実習期間】 3週間 【実習時間】 8：30～17：00 （1時間を45分とし、1日10時間、半日4.5時間とする 昼食時間は除く） （1）臨地実習 8：30～17：00 （2）学内実習 9：00～17：00 【実習目的】 周手術期の患者、慢性疾患の急性増悪患者など侵襲的な治療検査を受ける成人患者・家族を多面的に理解し、看護過程を通して侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応がはかれるように看護を実践する基礎的能力を養う。 【実習目標】 1 急性期にある対象の心理・身体・社会的影響を理解し、対象が心身共に良好な状態で検査・治療を受けるための看護援助に活用できる。 2 急性期にある対象の看護上の問題を把握し、計画立案・実施・評価ができる。 3 手術などの侵襲的検査・治療を受ける対象の侵襲に伴う変化を理解し、合併症を予防し、心身の回復と日常生活への適応に向けた看護援助ができる。 4 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にし、その機能を理解し、医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 5 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 【実習計画】 実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。 1 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で急性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク・DVDや文献で学習する。 2 臨地実習では、学生1～2名で急性期にある患者1名を受け持ち、術前・術後の看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。								
教科書								
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考		詳細は実習要項を参照						

領域	専門分野		科目	成人・老年看護学実習Ⅱ (慢性期)		担当	佐々木 みゆき 内田 祝子 他	
2022年度	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法		
2 年次 後期 3 年次 前期		3 単位	135時間	3週間	実習	実習評価表		100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
佐々木 みゆき		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
内田 祝子		成人領域での看護実践、看護教員の経験を有する。						
授業内容		慢性疾患に罹患している成人の対象及び家族に対し、看護師と対象の人間関係を基盤に、看護過程とセルフケア等看護理論を活用し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出す看護を学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)		基礎看護学・成人看護学・成人看護学援助論で積み重ねた学習を振り返り、実習の目的を意識しながら臨地実習に臨んで欲しい。						
実習内容								
【実習時期】 2年次2月 ～ 3年次 【実習期間】 3週間 【実習目的】 慢性疾患をもつ対象とその家族に対して身体的・心理的・社会的影響を理解し、健康障害とともに生きていくことを支える基礎的看護実践能力を養う。 【実習目標】 1 慢性疾患をもつ対象の身体面・心理面・社会面の特徴を理解し、看護援助に活用すること ができる。 2 慢性疾患をもつ対象の看護上の問題を把握し、 計画立案・実施・評価ができる。 3 慢性疾患をもつ対象と家族が、日常生活のなかで自己管理と適応がはかれるようにセルフケア等の看護理論を活用し、看護援助ができる。 4 看護スタッフや他の医療スタッフとのコミュニケーションを円滑にすることと、その機能を理解し、医療チーム内で果たすべき看護の役割と態度を学ぶ。 5 看護学生としての学ぶ姿勢と誠実で責任ある態度をとることができる。 実習計画実習スケジュールは、学内実習及び臨地実習の計3週間で構成する。 1 学内実習では、看護過程の展開（紙上事例）を行い、また、技術演習の中で慢性期患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク・DVDや文献で学習する。 2 臨地実習では、慢性期にある患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。								
教科書								
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考		詳細は実習要項を参照						

領域	専門分野		科目	成人・老年看護学実習Ⅲ (療養期・終末期)		担当	岡田 康平 半田 朋香 日山 寿枝	
2022年度	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法		
2 年次 後期		3 単位	135時間	3 週間	実習	実習評価表		100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
岡田 康平		看護実践・看護教員の経験を有する。						
半田 朋香		急性期・慢性期（認知症・終末期）病院で看護実践経験あり						
日山 寿枝		急性期・慢性期（認知症・終末期）病院で看護実践経験あり						
授業内容		療養期・終末期にある対象を受け持ち、安楽な日常生活の支援と、残存機能を活かし、QOLを高める看護を学ぶ。また、様々な喪失体験や終末期における全人的な痛みに共感し、その人らしさ、尊厳を大切にした看護を学ぶ。さらに、各職種の役割と協働・連携の必要性について学ぶ。						
学習者への期待 (含準備学習)		専門基礎科目、基礎看護学、成人看護学、老年看護学で学習した知識、技術を実際の対象と照らし合わせて思考し、対象に合った看護を明確な根拠・目的をもって実施できるよう取り組んでほしい。						
実習内容								
【実習時期】 2 年次 1 月 ～ 3 年次 6 月 【実習期間】 3 週間 【実習目的】 療養期・終末期にある対象とその家族を理解し、健康上の問題に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。 【実習目標】 1 介護老人保健施設で暮らす高齢者の日常生活を理解し、各職種の役割と協働・連携の重要性と看護師の役割を理解できる。 2 療養期・終末期にある対象の身体的、心理的、社会的側面と生活史や生理的機能低下及び健康の段階を関連付けて、高齢者の特徴を理解することができる。 3 健康障害により生活機能が低下した対象の残存機能を把握し、それを最大限活用できるような看護を計画し、実践、評価できる。 4 療養期・終末期にある対象に対し、保健・医療・福祉チームにおける連携の必要性を理解できる。 5 療養期・終末期にある対象の信念、価値観を尊重した行動をとることができる。 6 看護学生としてふさわしい態度をとることができる。 【実習計画】 介護老人保健施設実習 1 週間、病院実習 2 週間の計 3 週間で構成する。 1 介護老人保健施設では、療養期にある対象を 1 名受け持ち、対象の日常生活援助について、援助と援助方法を考える。 2 病院実習では、慢性期～終末期にある患者を 1 名受け持ち、看護過程を展開しながら対象に合った個別性のある看護を実践する。								
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 生活機能からみた、老年看護過程 医学書院						
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考		詳細は実習要綱を参照						

領域	専門分野	科目	小児看護学実習	担当	桐田 三世
2022年度		単位数	時間数	授業形態	評価方法
2 年次 後期 3 年次 前期		2 単位	90時間	実習	実習評価表 100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験			
大沼 良美		小児専門病院での看護実践，看護教員，看護全般にわたる経験を有する。			
授業概要		保育所・病棟実習を通じて、成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する。			
学習者への期待 (含む準備学習)		大切な基礎である病態をしっかりと学び、看護援助の根拠として欲しい。小児看護学で学んだ看護過程の展開についての知識を復習して臨むことを期待する。			
実習内容					
【実習時期】 2 年次後期（1～2 月）から 3 年次前期(5 月～7 月)まで					
【実習期間】 2 週間					
【実習目的】 成長・発達の途上にある子どもとその家族を看護の対象として理解し、健康障害の有無にかかわらず、より良い発達を遂げるための看護を実践する能力を養う。					
【実習目標】					
(保育所実習)					
1 健康な乳幼児の成長発達及び個別性を理解できる。					
2 健康な乳幼児の特徴を踏まえ、成長発達を促すための養育の実際を理解できる。					
3 健康な乳幼児の保育環境について、安全と保育衛生の面から理解することができる。					
4 看護者としての望ましい態度が自覚できる。					
(病棟実習)					
1 健康障害を持つ小児の特性を理解し、小児とその家族の抱える問題を捉えることができる。					
2 健康障害を持つ小児の健康問題の解決を目指すとともに、成長発達を促せるよう小児とその家族に適切な援助を行うことができる。					
3 他の職種との連携の必要性について考え、看護の役割について理解することができる。					
4 健全な小児観を養うとともに、小児看護の在り方について考えることができる。					
【実習計画】					
保育所実習では正常な発育の子どもと環境を観察し、養育の実際を体験する。					
実習病院では一人の子どもと家族を受け持ち、看護過程の展開を行ない必要な援助を実践する。					
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学 2 医学書院 写真でわかる 小児看護技術アドバンス インターメディカ				
参考文献	オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。				
備考					

領 域	専門分野		科目	統合実習		担当	桐田 三世	
2022年度	開講時期	単位数	時間数	期間	授業形態	評価方法		
3 年次	後期	2 単位	90時間	2 週間	実習	実習評価表		100%
担当者名		担当講義に関する経歴及び実務経験						
桐田 三世		臨床での看護実践、管理業務の実務経験を有する。						
授業の概要		看護チームの一員として対象がもつ健康問題を生活者としての視点で全体的に把握し、保健・医療・福祉その他の関連機関とのチーム医療を理解し、複数の患者を受け持ち、総合的な看護援助を行う。この看護援助を通して総合的な看護実践能力を培う機会とする。						
学習者への期待 (含む準備学習)		“タイムマネジメント”・“優先順位”・“チーム医療”・“組織の中でのそれぞれの看護師の役割”について考える機会にしてほしい。						
実 習 内 容								
【実習期間】 3 年次 8 月～ 10 月 【実習目的】 看護チームの一員として複数の患者を受け持ち、対象がもつ健康問題を生活者としての視点で全体的に把握し、保健・医療・福祉その他の関連機関とのチーム医療を通して、総合的な看護援助を行う。この看護援助を通して総合的な看護実践能力を培う機会とする。 また、看護の意義について考え、療養する人々とその家族の健康上及び日常生活上の問題を理解し、保健・医療・福祉の連携における看護の果たす役割を認識して行動できる基礎的能力を養う。 【実習目標】 1 病棟管理の実際や、他部門との調整等の見学を通して看護マネジメントについて理解する。 2 複数の患者を受け持ち、患者の状況のアセスメントやケアの優先順位の判断、時間管理し、適切な看護の提供を考えることができる。 3 チームリーダーの役割、チームメンバーの役割を理解し、業務の調整や、医師や他部門との連携・協働、及びチームの一員としての役割が理解できる。 【実習計画】 ・実習において複数の患者を受け持ち、情報収集し優先順位の根拠を考え、必要な援助を実践する。 ・動画を通して、チーム医療、多重課題、医療安全、看護管理の実際を学ぶ。								
教科書		既習の教科科目及び参考図書						
参考文献		オリエンテーション及び実習中に適宜提示する。						
備考		※詳細は実習要項を参照						